

担当者	原稿	文字数	個人秒数	総秒数	総時間
	会場の皆様こんにちは。福島大学附属中学校、副校長の遠藤と申します。この度は全国学校・園庭ピオトープコンクールにおきまして文部科学大臣賞を頂きましたこと、誠に光栄に存じます。	86	16	16	0:00:15
	本校は「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を研究主題に掲げ、福島大学の附属学校として教育の先導的実践に努めているところです。ピオトープ活動においても生徒たちの主体性が様々な場面で見られ、日々成長を実感しております。この後、生徒たちが今年度の活動内容について紹介しますので、ご清聴いただけますと幸いです。	158	29	44	0:00:44
	私たちは福島大学附属中学校のピオトープ管理委員です。本日はよろしくお願ひします。発表は、「ピオトープ活動のきっかけ」「今年度の取組紹介」など、こちらの順序で発表いたします。	86	15	60	0:00:59
	はじめに学校の紹介です。本校は、福島県の北部の福島市にある学校です。学校から直線距離で約1.5kmの位置に福島市小鳥の森という里山があり、市街地と郊外の自然豊かな場所との中間地点に位置しています。全校生徒は417名で、全学年に4つの学級があります。	124	22	82	0:01:21
	続いて、私たちがピオトープ活動に取り組んだきっかけを紹介します。ピオトープづくりのきっかけは、中学1年生の理科の授業でした。4月から始まった「いろいろな生物とその共通点」という学習で、この単元の学習課題や学習計画を学級のみならずで議論して設定しました。その計画の中で、「本物の生物を実際に観察しながら学習を進めたい」「様々な生物が息できる環境を附属中につくっていくのはどうか」という意見が多く出されました。	203	36	118	0:01:57
	私は全学級の学習計画を見た時に、中庭をピオトープ空間として考え、どの学年の理科の授業にも他の教科の授業にもつながる空間をつくっていくのが良いのではないかと考えました。私たち1年生は小学校生活の半分がコロナ禍でしたので、他の学級や学年との交流も行えませんでした。だからこそ、中庭のピオトープをきっかけに学級や学年の枠を超えた活動ができれば嬉しいなとも考えました。そこで、『中庭のピオトープ案を募集して学校でコンテストを開くのはどうか』そして『学校をつくるピオトープを全国のピオトープコンクールに応募してはどうか』という意見を理科の授業の中で学級のみならず提案しました。学級のみならず賛同してくれて、みんなで校内ピオトープの運営案を立てました。そして、理科担当の先生にお願ひをして、職員会議で1年1組の考えを先生方に提案しました。	363	65	183	0:03:02
	職員会議では、私たちの提案を先生方が認めてくださいました。先生方の協力のおかげで、理科の学習以外にもピオトープをテーマとした学習が始まりました。校内ピオトープ案コンテストの前には、1年生の美術の授業でピオトープを題材とした「レイアウト」や「構図」の授業がありました。	133	24	206	0:03:26
	このコンテストでは、全校生徒から100点を超える応募があり、1次審査を経て最終審査に残った10点について全校生徒でフォームの投票を行いました。そして、最優秀賞と優秀賞を決定し、これらの案をもとに中庭にピオトープ空間をつくることになりました。	120	21	228	0:03:47
	校内ピオトープ案コンテストで最優秀賞をいただきました佐藤瑞季です。この学校で中庭にピオトープ空間をつくと聞いたとき、私は多くの人の印象に残る附属中学校にしかないピオトープ空間をつくりたいと考えました。そこで、私たちが住む、福島県の形の池とその周辺の環境を提案しました。	135	24	252	0:04:11
	実際に福島県形の池が掘られたときは、嬉しさとともにこの環境をよりよくしたいという思いが芽生えました。たくさんの生徒たちで毎日休み時間に集まってつくった中庭の水場なので、私たちや生物たちの憩いの場になればと思います。	107	19	271	0:04:30
	私たちが目指すピオトープの目標は、こちらの3つです。これらの目標は「校内ピオトープコンテスト」で出品された案をもとに決めました。そして、先ほど紹介した福島市小鳥の森の環境を意識することで、シジュウカラが本校にやってくる、トンボが産卵したりするのではないかと考えて活動しています。	140	25	296	0:04:55
	だんだん中庭のピオトープ活動が本格的になり、管理する生徒を決めたほうがこの活動を継続的に発展させられると私は考えました。そこで、ピオトープ管理委員という有志団体を作ることを生徒会執行部に提案しました。	100	18	313	0:05:13
	さらに、ピオトープについて調べていくと、ピオトープ作りには専門家の協力のもと環境の管理と評価を行っていくことが大切だということが分かりました。そこで、福島大学の専門家の先生に本校のピオトープ活動に協力していただけないかと考え、関本先生に相談しました。	125	22	336	0:05:35
	先生が大学の先生に連絡をとってくださり、協力が得られるようになりました。	36	6	342	0:05:42
	理科を担当している関本と申します。生徒たちのピオトープ活動に対する熱い思いを大学の先生にお伝えさせていただき、福島大学共生システム理工学類の黒沢教授と塘教授にご協力をいただけることになりました。大学の先生との連携の中で様々な実践を行いましたので、この後その一部を生徒たちが発表いたします。	144	26	368	0:06:07
	中庭のピオトープは、総合的環境学習でもテーマになりました。特に、福島大学の黒沢先生が「本当のピオトープとは何か」をテーマに「環境の保全・復元」の観点からピオトープの本質について教えてください、校地内に生息していたヨシ・チガヤ・ススキの3種類の植物を中庭に移植しました。	134	24	392	0:06:31
	3年生の理科では「生命の連続性」「地球と私たちの未来のために」という2つの単元の中でピオトープを学びました。ピオトープの維持・管理方法について食物連鎖や分解者のはたらきなどを実験したり、ピオトープの注意点や問題点を考えたりしました。	116	21	412	0:06:52
	また、9月には「植物を移植と池の効果」を評価するために、中庭と外庭の環境を比較する授業を実施しました。調査当日は福島大学の塘先生をお招きして生物の同定をしたり、調査結果を考察したりしました。	95	17	429	0:07:09
	これが、中庭と外庭の比較調査の結果の一部です。詳細は、本校のHPに掲載しています。外庭で見られなかったトンボが池のある中庭では観測できました。また、調査日と別日に、トンボが中庭の池に産卵している様子も確認しています。私たちはこれらの結果を中庭に池を設置したことの効果として捉えました。もちろん、生態系はすぐに構築されるものではありません。今後長期的に管理と評価を行って経過を観察したいと思います。	199	35	465	0:07:44
	ピオトープ内の池には課題もあります。それは、水が抜けてしまうことです。水道水の使用や防水シート・コンクリートで池を囲うことも考えましたが、より自然を意識するため、これらは最終的手段にしました。現在は、屋上に雨水をためておき、池の水が一定量より減った場合は、流入口をあけて貯水ダムから水を流すことにしています。	155	28	492	0:08:12
	2年生の天気学習では、1年間の蒸発と降水の量を実測値や気象庁のデータをもとに予測ははじめています。今後は、これらのデータを加味して、次年度以降に防水シートなどの必要性を検討していきます。	97	17	509	0:08:29
	10月27日には、福島県内の小中学生を対象として「ふくしまピオトープ子どもサミット」をオンラインにて開催しました。このサミットの目的は、ピオトープをきっかけに生物多様性や環境保全の取り組みが各学校に広がっていくことです。福島大学の塘教授も参加していただき、講評もいただきました。	139	25	534	0:08:54
	このサミットの拡がりについて紹介します。会津若松市立第四中学校では、生徒会役員がサミットに参加後、環境保全活動を推進していくことの必要性を感じ、生徒の意識調査を行ったそうです。その上で、生徒会役員が中心となり、中庭にピオトープ空間を作る、ピオトーププロジェクトを立ち上げたそうです。このような広がりがとても嬉しいです。	159	28	562	0:09:22
	本校では、10月30日と11月1日に、学校公開がありました。2日間で約330名の先生方が来校しました。私たちは、来校された先生方にピオトープ活動の魅力について発表し、先生方にピオトープのすばらしさを発信しました。	106	19	581	0:09:41
	これからも福島大学附属中学校では、たくさんの生物の憩いの場、全校生徒の学びの場になるピオトープ空間を目指し、日々活動しています。そして、福島大学附属中学校といえばピオトープと思ってもらえるくらいピオトープを福島県に、そして全国へさらに発信し、普及させていきたいです。ご清聴ありがとうございました。	148	26	608	0:10:07